

【考え・基礎知識】

いじめは自分の身近に起こり得ることであり、絶対に許されるものではないことが分かる。

【つながり】

自分の心の中にも、分かってはいても止められない弱さがあることに気づき、いじめをなくすことについて自分との関わりで捉えている。

【応用・広がり】

いじめの愚かさを知り、差別や偏見を憎み、不正な言動を許さず、いじめをなくしていこうとする意欲を持つことができる。

◇ 学年 第3学年

◇ 主題名 いじめのない公正、公平な社会を (内容項目 C 公正、公平、社会正義)

◇ 本時のねらい いじめられていたT子さんの気持ちや、その後の筆者の生き方について考えることを通して、いじめの愚かさを知り、差別や偏見を憎み、不正な言動を許さない態度を育てる。

◇ 教材名 「卒業文集最後の二行」(出典:「私たちの道徳 中学校」 文部科学省)

◇ 学習の流れ(1時間目/全1時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (主な発問 (○), 中心発問 (◎), 予想される生徒の発言 (・))	評価 (評価方法)
1 課題意識をもつ。 ・新聞記事を見て、いじめについての思いや考えを出し合う。	◇いじめに関する新聞記事を提示し、自分の身近にも起こり得ることだということを感じさせるとともに、「いじめはいけないことだと分かっているが、なくならないのはなぜか。」と問い、ねらいとする道徳的価値への方向付けとする。	「いじめは絶対に許されるものではないのに、なくならないのはなぜか」と投げかけることで、課題意識をもたせる。
○いじめをなくすために大切なことは何だろう。		
2 教材「卒業文集最後の二行」を読んで話し合う。	◇「自分だったら」と問い、自分のこととして考えさせるとともに、自分なりの根拠を語らせ、類型化しながら板書に整理する。 ◇多様な視点から議論させることで、「自分が悪者になるのが嫌だから。」「次の標的になりたくないから。」という、正しい行動を阻止する、自分本位の考え方や人間の弱さに気付かせる。	「つながり」を意識した展開の工夫
○悪童どもがT子さんに中傷の矢を浴びせた時、あなたが筆者だったらどうするだろう。 ・みんなに「カンニングをしたのは自分だ。」と、本当のことを言う。 ・事実を正直に言って、T子さんに謝る。 ・謝りたい気持ちはあるが、勇気がなくて黙っている。		
○卒業文集の最後の二行には、T子さんのどのような気持ちが込められているだろう。 ・こないじめはもう耐えられない。 ・今まで本当に苦しくて悲しかった。 ・見た目ではなく、本当の私を分かってくれる友達がほしかった。	◇最後の二行に込められた「本当のお友達」という言葉に着目させ、いじめられる側の心情を考えさせることで、T子さんのつらく、悲しい気持ちや、「助けて欲しかった」という切ない思いに共感させ、いじめは絶対に許されない愚かなものであることを捉えさせる。	生徒の発言やつぶやきを問い返したり、根拠を具体的に発表させたりすることで、「人間の弱さを克服し、いじめをなくすために何が出来るか」についてさらに深め、ねらいとする道徳的価値について自分との関わりで考えさせる。
◎卒業文集の最後の二行は、筆者の生き方をどのように変えたでしょう。 ・自分のことだけ考えるのではなく、人の痛みや悲しみを感じる事の大切さを知った。 ・相手の気持ちに寄り添うことができるようになった。 ・誰に対しても平等に接し、「いけないことはいけない」と言える勇気をもつことができた。		
3 導入で提示した課題について話し合う。	◇ワークシートに書いた自分の考えを基に、ホワイトボードや付箋紙を活用しながらグループで交流させ、その後、全体で話し合わせることで、筆者が気付いたことについて多面的・多角的に考えさせる。 ◇「三十年余りが過ぎた今でも」「大いなる悔い」という言葉に着目させることで、いじめは、いじめられた人はもとより、いじめた人や、それを見ていた人にも大きな傷を残す、愚かで、絶対に許されないものであることに気付かせる。	・いじめの愚かさを知り、不正な言動を許さず、誰に対しても公正、公平な態度で接していこうとしている。 (発言・ワークシートへの記述)
○いじめをなくすために大切なことは何だろう。 ・自分の事だけを考えるのではなく、相手の悲しみやつらさを理解すること。 ・いじめを見た時には、止めたり注意したりする勇気をもつこと。 ・一人だけでなく、みんなが同じ気持ちをもつこと。		
4 本時のまとめをする。	◇相手の立場に立って考えるとともに、弱さを乗り越え、差別を許さない学級に高めていくことが、いじめをなくすことにつながることに気付かせ、課題に対する納得解をもたせる。 ◇これまでの自分自身を振り返りながら、授業を通して考えたことをワークシートに書き、交流させることで、今後の生き方につなげる。	
生徒のまとめ例	私は、いじめられている人がいても知らないふりをしてしまったことがあります。でも、いじめられていたT子さんはずっとつらくてしんどかったと思います。いじめは卑怯な行為で、絶対に許されないものです。いじめられている人がどんな思いでいるのかを考えて、いじめに立ち向かう強い心もちたいです。そして、いじめを許さない学級をつくっていきたいです。	
5 「私たちの道徳」を読む。	◇「私たちの道徳」P165の「いじめ撲滅宣言」を読み、いじめを許さない実践意欲と態度の高まりにつなげる。	「応用・広がり」を意識した終末の工夫